

平成 26 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2014年4月～2015年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表  
します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満  
たないもの、報告書が2年連続して未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧  
告させていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 奈良女子大学附属中等教育学校  
 種別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫教育  
 中学校  高等学校  中高一貫教育  
 教員養成  技術/職業教育  
 特別支援学校  その他 ( )  
 住所 〒630-8302  
奈良市東紀寺町1-60-1  
 E-mail : 08nwuss@roseleaf.nara-wu.ac.jp  
 Website : http://www.nara-wu.ac.jp/fuchuko/  
 児童生徒数：男子 357 名 女子 382 名 合計 739 名  
 児童・生徒の年齢 13歳～18歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ( )

## 4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

### A 海外交流

#### ① アジア高校生国際会議「Yes for ESD」の取り組み

かつてヨーロッパの一部の学校と展開されていた本校の国際交流事業は、2006年度ユネスコスクール加盟を機に、アジア・オセアニア地域との交流へと大きな方向転換を行ってきた。具体的には、アジア地域のユネスコスクールとの高校生による国際会議プログラムを実施するものであり、2010年度に、City College of Calapan (フィリピン) とともに、高校生による国際会議 YES for ESD を共催するに至り、今年度で5回目となった。

【図】



[今年度の YES for ESD]

今回は、7月中旬にフィリピンのミンドロ島にあるカラパンで行われた。本校から参加した5年生の6名の生徒たちは、シャワーもすべて冷水のみ、携帯もスマホもつながりにくいという日本と異なる文化のなかで、フィリピン、台湾、インドネシアの学生とともに、今年のESDのテーマ「気候変動」について、学びあった。日程は、次の通りである。

- 1) 期間：2014年7月5日～12日
- 2) 参加者：約35名（フィリピン、インドネシア、台湾、日本 本校からは、5年生6名+教員2名）
- 3) プログラム内容：
  - Day 1 (7月5日) マニラ到着 マニラ市内見学（歴史、文化を学ぶ）
  - Day 2 (7月6日) マニラ出発 カラパン到着、カラパン市内見学、参加者自己紹介

Day 3 (7月7日) 開会式 学校紹介 気候変動について各国の現状を調査発表 歓迎会

Day 4 (7月8日) ごみ処理場見学 環境教育について学ぶ マングローブ林植樹 <ホームステイ>

Day 5 (7月9日) ホームステイ体験の振り返りと共有 マングローブについて講義

気候変動についてのワークショップ 気候変動について国際会議

各国グループで気候変動の問題解決に向けてアクション・プランを考える

Day 6 (7月10日) アクション・プランの発表会 お別れ会

Day 7 (7月11日) カラパン出発 マニラ到着

Day 8 (7月12日) マニラ出発 日本到着 解散

生徒たちは、4月から準備を始め、「気候変動」の問題について、文献調査やフィールドワーク、また大学教授への聞き取りなどの調査研究を行い、それを英語で表現する練習を重ねて、本番に臨んだ。実際のプログラムでは、互いのプレゼンに対して、ディスカッションを行い問題の理解を深めるとともに、最終的には、夜遅くまでミーティングを重ねて、アクション・プランを作成した。生徒たちの感想を紹介します。

「日本人は豊かすぎると感じた。豊かなあまりに日本人は欠けているものが多いように思う（フィリピンに比べて、笑いや温かみに欠けると思う）。そして、豊かだからゆえに、世界のことを知らない。教科書ぐらいでしか見る機会がないし、だから他国とのギャップに嘆くんだらう。金銭的に豊かなのは結構なことだが、精神的や世界の常識に日本人は乏しく、その方がかわいそうなことかもしれない。」

「今回の参加でいろいろなことを考えさせられた。たとえば、国の違いから出てくる発想の差異である。正直言って、僕の頭には植林という文字はかけらもなかった。しかしそういった考え方は、他の国からすぐにでてきた。地球温暖化を止めるのはエコだけではないのだ。僕はESDに参加して、様々な方向に視野を広げていくことができた。思いつきそうでてこなかったアイデアは自分が進んだ先で沢山転がっていた。」

(なお本プロジェクトは、ESDアシストプロジェクトの支援を受けました)

## ②釜山国際高校主催の高校生国際会議「Global Forum」への参加

本校が姉妹校提携を結んでいる、ユネスコスクール釜山国際高校が毎年実施しているGlobal Forumへ今年も4,5年生4名が参加した。このフォーラムは、ESDをテーマに、韓国、中国、オーストラリア、日本、ロシア、スウェーデンの6カ国の高校が集まる国際会議であり、今年は「女性の働き方」をテーマにプレゼンやディスカッションが行われた。

## B WHE・ESDをテーマにした総合学習の取り組み

本校における「総合教科」、「総合学習」の取り組みは25年近い歴史を持ち、本校のアイデンティティともいえるものである。かつては、「3年環境学・4年世界学・5年生活科学」と、中高で計6単位の学習も設置されていた。環境学では講義やフィールドワーク（以下FW）で環境問題を学び、世界学ではシミュレーション教材やFWで世界につながる問題を学んできた。担当教員も全教科にまたがり、教科の壁を乗り越えた学習が展開されてきた。

2010年度からは、新学習指導要領の趣旨をふまえ、教員の専門性をより生かした「総合学習プログラム」が導入された。その理念の中心となったのが、ユネスコスクールの「持続可能な開発のための教育」(ESD)である。内容面では「様々な分野を多様な方法を用いてつなげ、総合的に取り組むこと」、方法面では「参加型アプローチ」「学習者の自発的な行動」をめざすこのユネスコの理念をもとに、本校の総合学習カリキュラムの再編が行い、現在にいたっている。その学習領域としては「現代的・世界的な諸課題解決の理念」つまりESD(持続発展教育)やWHE(世界遺産教育)を、学習方法としては、本校総合学習の成果を踏まえつつ、“教員の専門性”をより重視した総合学習をめざしている。1、2年では、WHE(世界遺産教育)をテーマとする「探究・奈良Ⅰ、Ⅱ」が、3、4年にはESD(持続発展教育)をテーマとする「探究・世界Ⅰ、Ⅱ」を設置している。

○1・2年 「探究・奈良Ⅰ」「探究・奈良Ⅱ」

WHE(世界遺産教育)を理念とし、フィールドワークを中心にすえたりサーチ学習の基礎となる能力や発表の力の基礎を身につけさせることを目標としている。具体的には1年では、世界遺産「古都奈良の文化財」を体験する学習、2年では歴史文化遺産としての平城宮跡を調べ、表現する学習を行い、世界遺産教育を進める。

○3・4年 「探究・世界Ⅰ」「探究・世界Ⅱ」

現代的・世界的な諸課題解決の理念、つまりESDを対象として、学習方法として、本校総合学習の成果を踏まえつつ、“教員の専門性”をより重視した総合学習がめざしている。具体的には、個別教科の枠組みをこえた「環境」「健康」「国際理解」「人権・平和」などのグローバルイシューについて、ESDを各教員の専門性を生かした視点で分節化し、学習活動を展開してきた。

(2) 活動時間について(下記から選択して下さい。)

- 通常の授業時間を使用(総合的な学習の時間を含む)
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他( )